

2013 ボランティア・NPO 活動ニュース

県北版【7月号】

# んだすな

写真で伝える「活動の魅力」

## 「未来まで四季美湖に桜を残そうプロジェクト 2013」

主催：森吉四季美湖を守る会

森吉四季美湖を守る会では、秋田県の「県民参加の森づくり事業」の採択を受け、植林作業を通じ参加者に森林や水の大切さを学んでもらおうと、平成23年から森吉ダム湖周辺にブナや桜の苗木を植えて環境整備を進めてきました。

6月15日(日)に老人クラブやボランティアが参加し「四季美湖美化活動」を行い、6月24日(月)には北秋田市長をはじめ、北秋田市立前田小学校全校児童とボランティア約100人が集い、100本の「桜」と「地元を愛する心」を植えました。

## 今月のトピックス!

- ・活動紹介  
「大館ボラバスプロジェクト」
- ・CB/CSRいろは塾  
「けいそーぶ」
- ・新設NPO紹介  
小坂町「かわかみ」
- ・秋田県地域活力創造課 富岡班長より  
協働は「県民の力」を引き出す新しいステージ!
- ・情報あらかると
- ・NPO経営安定化に向けて



# 活動紹介

## 大館ボラバスプロジェクト



隣県だからこそできる支援。  
長く険しい復興への道程、  
応援し続けたい。

大館ボラバスプロジェクトは、東日本大震災の被災地支援活動を目的に、2011年11月から岩手県陸前高田市に向けたボランティアバスツアーを催行している草の根ボランティア団体です。

誰でも気軽に参加できる日帰りボランティアバスツアーとして、これまで7回にわたり毎回25名前後の参加者が、陸前高田市災害ボランティアセンターやその業務を引き継ぐかたちで設立された陸前高田市復興サポートステーションの指示のもと、がれきの撤去や側溝の泥上げなどに少林寺拳法復興支援陸前高田チームと協働で取り組み、隣県だからこそできる支援を模索しながら、長く険しい復興への道程を応援しています。



今回の活動紹介では、大館ボラバスプロジェクト責任者の小林佳久さんにお話をお伺いしました。

### 陸前高田市の現状は…。

陸前高田市では昨年末に災害ボランティアセンターが閉所されるまでの間、延べ13万人ものボランティアが活動しました。毎日あれだけ多くのボランティアが訪れていたのに、今では閑散としています。「忘れられてしまった…」、そんな風に悲観してほしくないのです。日帰り可能なこの地域に住む私たちなら、「忘れていない」「応援している」のメッセージを携えて、時々交流し寄り添う活動を続けることもできるのではないのでしょうか。



人口約2万4千人の陸前高田市では、1,700名以上の方が亡くなりました。震災孤児は40名以上、震災遺児はおよそ150名にもものぼるとわれています。多くを失い傷ついた人達には、当然のことながら長期にわたっての支援が必要です。「街の復興」と「心の回復」そのいずれもが全く先の見えない状況なのです。彼らの心が折れないように、できることをできる時に続けていきたいと考えています。

### 活動のきっかけは…？

震災発生直後、指導している少林寺拳法の道場で、子ども達が「先生、何か行動しないの？」そう言ったのです。少林寺拳法には、「愛民愛郷の精神に則り、世界の平和と福祉に貢献する」という信条があります。日頃から「想像し共感したら、合理的に決断して勇気を持って行動しよう」と教えていたのですが、まさにその精神が発露したようで、とてもうれしかったことを覚えています。どうせやるなら、少林寺拳法の中だけにとどまらず市民の皆さんと共に活動しようと思ってきました。一緒に行動してくれた市民の皆さんが、盛り上げてくれています。

### 活動を通して子ども達を感じたこと（感じていること）

子ども達みんなが口をそろえて言うのは、テレビで見るのと実際に行くのとでは全く違うということでした。いろいろな体験が、想像力や共感する力を育ててくれるのだと思います。子どもに限らず自発的に行動しようという方々が、集まってきています。きっと日本の将来は安泰です。



## 苦労したことは？（していること）

特段苦労はありません。自分自身も、できることを無理せずやっているだけです。とはいえ、多くの方に背中を押され支えられていることは強く感じています。続けることができるのは様々な形で応援してくれている方がいらっしゃるからだ感謝しています。

## 現地ではどのような活動をしていますか？

去る6月23日（第7回目）には、体力を必要とする作業に加えて、被災された方々に直接寄り添いふれあう活動もおこないました。「ヤルキタウンでかだっただんせ」と銘打ち、湯沢市の「ひまわりプロジェクト（代表 松浦英明さん）」や陸前高田市の「NPO 法人再生の里ヤルキタウン（理事長 熊谷耕太郎さん）」と共催し、コミュニティ施設のヤルキタウンで、秋田と陸前高田の子どもたちが鬼ごっこやお絵かきなどで遊んだり、また大人も子どもも一緒になって味噌つけたんぼや小物を作りながらおしゃべりをしたりするなど、およそ100人がふれあい、楽しく交流を図りました。

## 今後の活動に向けては？

たとえば浸水地域の多くの側溝は、今なお、津波によって運ばれたヘドロに埋まっています。そこはもしかすると、今後嵩上げ工事がおこなわれる場所かもしれません。となれば、費用対効果から業者が泥上げ工事をおこなうことは考えにくいと言えるでしょう。けれども、そこがたとえ嵩上げされる場所であったとしても、“誰かの何か”を探しながら泥出し作業をすることの意義は大きいのではないのでしょうか。さらに、御霊が眠り市民の思い出あふれた高田の街が水浸しの荒野になってしまわないように少しでもきれいにすることは、市民の心に寄り添う行為だと思います。一見無駄かもしれないそんな作業に汗する外部ボランティアの姿を見て、陸前高田市民の皆さんが「応援されているのだ」と感じてくれる、何にもましてうれしいことではありませんか。

遠くから背中をみせて寄り添う浸水地域での活動も、また一緒に過ごして直にふれあうヤルキタウンでの活動も、心のケアにつながります。とはいえ大きな成果が見えるものでもありません。復興の主役は陸前高田市民であり、外部のボランティアにできる事など極めて限定的です。たった一日、被災地で被災者の心に寄り添うことしかできないながらも、せめて隣県に住む者として「忘れない」「応援している」のメッセージを行動で伝えたいと願っています。是非一度ご一緒しませんか？皆さまのご参加をお待ちしています。

## 大館ボラバスプロジェクト 「ヤルキタウンでかだっただんせ」

### 参加者募集中!!

大切なのは『かだっただんせ（一緒にやりましょう）』という気持ちです。小学生から大人まで、また男性・女性、体力の有無を問わず参加できるよう下記プログラムを用意しています。

#### A コース

#### 浸水地域でボランティア かだっただんせ

主に体を使ったボランティア活動で、被災地の方にも「かだっただんせ」と呼びかけます。陸前高田市復興サポートステーションのマッチングにより、「側溝の泥上げ」「草刈り」などをおこないます。体力の必要な活動ですが、これまで多くの女性も参加しています。



#### B コース（子ども）

#### 子ども同士のおそび かだっただんせ

このコースでは小・中学生のボランティアを募集しています。被災地の子どもたちに寄り添いながら、鬼ごっこや縄跳びなど「おそび」を上手にリードする役割を担っていただきます。おそびを通じて、様々な交流体験をし、新しい友達をつくってください。



#### B コース（大人）

#### 見守り・傾聴ボランティア かだっただんせ

こちらのコースでは、ヤルキタウンで遊びまわる子ども達の安全に配慮して見守りながら、傾聴の態度で地元の方のお話を伺うボランティアです。



次回開催予定・申し込み方法は下記ホームページ  
または

【問い合わせ・申し込み先】  
大館ボラバスプロジェクト  
責任者 小林 佳久  
TEL.0186 - 43 - 2553  
E-mail: yoshi@kumagera.ne.jp  
URL: <http://tinyurl.com/7vyvptp6>





## CB・CSRいろは塾

NPO派遣相談員として、県北地域を走りまわっているインキュベーションマネージャーの浅利博樹です。さまざまな地域ビジネス（CB）や、企業の社会貢献活動（CSR）の事例を紹介していきます。



# 北秋田市の大地が生んだ石けん

北秋田市の日本一といえば、「鷹巣大太鼓」ですが、実はもう一つあります。

それは「珪藻土（けいそうど）」と言われる、藻類の一種の珪藻が石化した地層です。

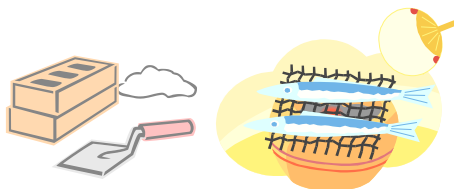
珪藻というプランクトンが太古の昔に大量に増殖したものが死滅、そして海底に沈積し、永い年月を経て珪藻土鉱床が作られ、そこから産出される化石を珪藻土と呼びます。



珪藻土の全世界の保有鉱量は約 8 億 t と推定され、世界全体の推定消費量の今後 200 年分以上の資源があるといわれています。このうち、日本の生産量シェアは世界全体の 1 割を占めています。

日本では古くから七輪や、家の土壁の材料として使われています。

現在では、主にろ過助剤として多くの産業に使用され、また充填剤や耐熱レンガにも使われています。



過去にも北秋田市では「珪藻土の新たな活用による地域活性化フォーラム」が開催され、産出量日本一を誇る北秋田市産珪藻土について、その特性と活用方法、地域活性化のアイデアについて行政・企業・大学等各方面の専門家が多様な提案をされました。

今回ご紹介するコミュニティビジネス事例は、このような世界に誇れる地産物を使って珪藻土入りの石けん『けいそーぶ』を作っている「鷹巣安全な石けんを広める会（さぶる）」とその地域連携についてです。



さぶるでは、川や下水にそのまま流され水生生物や水質に影響を与えてきた廃食油を再利用することを通して、市民が水質汚染について考えるきっかけとなり、また化学物質をできるだけ使わない生活意識を高めることを目的に、会のメンバーがボランティアで 22 年間手作り石けんを作り続けてきました。



『けいそーぷ』の一番の特徴は、米代川流域地域の環境と地域住民の健康を守るため飲食店などの廃食油をリサイクルして作られていることです。

原材料はこのリサイクル油と苛性ソーダ、「子ども達に豊かな自然と未来を残したい」という会の主旨に賛同した北秋田市の「昭和化学工業株式会社」から無償提供された珪藻土粉末の3つだけです。微細な珪藻化石が触媒効果とスクラブ効果となって効果的に汚れを落とします。また、水で薄められると界面活性がなくなり、短時間で分解されて水と二酸化炭素になるので環境にも体にも優しい石けんです。



洗濯・食器洗い・掃除など幅広く使えるのも特徴です。

この会が作る石けんを更に広めようと、同市内の任意団体「まちなかトープ」が販路支援と製造施設の提供に協力、委託販売先を日々探して奔走しています。



石けんの製造は一般参加型の教室形式で行われ、市民交流の場、環境配慮のノウハウを学ぶ場にもなっています。

会の活動を企業や地域の団体が応援し、市民の協力で出来上がった珪藻土石けん『けいそーぷ』は、正に「協働から生まれた石けん」と言えるのではないのでしょうか。

珪藻土石けんは、まちなかトープ（北秋田市松葉町 9-10）で販売されており、石けん作り教室もここで定期的に行われています。興味のある方は是非ご参加ください。

## 新設NPO法人ご紹介

### 特定非営利活動法人 かわかみ

（平成25年5月設立）

小坂町では現在、高齢化率が37%までに達しており、またその一方で年少者人口も年々減少し続けています。

このような状況の中、空き家を整備し高齢者の孤立防止、生きがい作りを目的に集えるコミュニティ作り、集う人達が長年の経験や特技を活かし、農産加工品や工芸品作りを提案することで地域を盛り上げていきます。また、高齢者支援だけでなく、古民家や空家を活用した被災者受入や、若者向けのシェアハウスといった事業をおこなっていきます。



※北部市民活動サポートセンター 岩谷（左）と、「かわかみ」理事 中村明人さん（右）が、今後の活動について語りました。

特定非営利活動法人かわかみ  
代表 中村 鉄司  
小坂町小坂字濁川36番地





秋田県企画振興部地域活力創造課  
県民協働・県民運動推進班  
主幹(兼) 班長 富岡 伊穂子

## 1 「NPOは県民の力を発揮できる場であり、意欲の集まりである」という意識に立つ

(1) 地域課題を解決するために、県民が行政の力を借り、行政もまた県民の力を借りる。力の貸し借りが、信頼関係のもとで行われることを「協働」という。

NPO同士、企業とNPOも、自分たちはどんな札(得意な分野や資材)を持っているのか、手の内を見せ合って、1つの組織ではできなかったことを力を合わせてやってみる、それが今風!

(2) これまで「公共」=「行政がなすべきもの」ととらえる意識が強かった秋田県では、県の協働事業は、いわゆる「協働の創生期」にあり、NPO等を委託先、指定管理者としてとらえ、業者・公益法人委託と同様に、県職員が事業内容を練り、予算が決まってから公募でNPO等と初めて仕事をするという仕組みになっている。そのため、対等な連携相手としての関係性が育ちにくかった。

(3) NPOから見れば、企画立案段階からの参画や、行政の政策・予算編成のしくみなどを情報提供される機会が少ないことから、行政の仕組みの問題とは分からず、県職員の理解が不足している「意識改革せよ」と唱えがちである。ところが「仲良くしなさい」と言われてもすぐに仲良くできないように、関係性というのは、外から言われても容易には築けないものである。

(4) 協働の関係性を築くには、NPO等との意見交換の場や情報提供の場も「協働」の範疇に入れ、企画立案の段階から人件費や運営費を積算に入れるなどNPO等が参画しやすい環境を整えた「協働事業枠」などとして制度化し、そのことで職員意識を変革していく必要がある。

## 2 「NPOインターンシップ」で新たなかたちの協働を創り出す

(1) 県庁にNPO等の職員を受け入れて県職員とFACE TO FACEの関係性を築きながら新たな協働形態を創り上げていく「NPOインターンシップ」を今年から実施する。

(2) それに先立ち、全庁ヒアリングにより、平成25年度の協働事業の遂行上の課題や協働が未開拓な分野について方策をまとめるとともに、インターンシップの受入を関係課所に打診し、予算や施策案内といった共通事項にプ

スして独自メニューや研修受入期間を協議する。(7月末まで)

### 【スケジュール予定】

中間支援組織との協議(8月)→「協働推進連絡協議会」でも説明。意見聴取・協力依頼。  
公募(9~10月)、受入(11~12月)、検証のためのワークショップ(3月)

## 3 みんなの努力でNPO等の全体評価アップを!

協働の関係性を築くには、一つひとつのNPOが評価アップの取組みをすることが大事になる。

次の3つを主なものとして提案する。

(1) NPO会計基準に沿って財務諸表を作成しているか。

- ・何のためにこの資料を作るか?
- ・この資料で何が表されるのか?

※運営支援となる金融機関の融資利用を促進するためには、法人の基準である会計・経理の状況に事業の透明性が顕れていることが、NPOへの信頼性を高めるものとして重要である。

(2) 県内3つのNPO支援センターや市町村、地域振興局との信頼関係が構築されているか。

- ・地域資源とコミュニティを活かしているか?

(3) 組織のミッション、事業内容についてのプレゼンテーションスキルを身につけているか。

- ・わがNPOの良さがアピールできるか?

### (参考) 信頼されるNPOの条件

信頼されるNPOの条件

- ① 明確なミッションを持って継続的な事業展開をしていること
- ② 特定の経営資源のみに依存せず、財政面で自立していること
- ③ 事業計画・予算の意思決定において、自立性を堅持していること
- ④ 事業報告・会計報告などの情報を積極的に公開していること
- ⑤ 組織が市民にひらかれており、その支持と参加を集めていること
- ⑥ 最低限の事務局体制が整備されていること
- ⑦ 新しい仕組みや社会的な価値を生み出すメッセージを発信していること

(出典: 日本NPOセンター「知っておきたいNPOのこと」)

# 情報あらかると

## 平成25年度女性チャレンジ事業 「私らしく輝く」 ～落語に生きる女子の挑戦～

男性社会における女性チャレンジの実践事例として、立川こはるさんに講演してもらいます。講演後には落語も披露していただきます。  
【講師】立川こはるさん(立川流初の女流落語家)  
【日時】平成25年7月23日(火)13:30～16:00  
【会場】秋田県北部男女共同参画センター(大館市宇馬喰町48-1)

【対象・定員】30名  
【参加料】無料  
【申し込み方法・期限】

平成25年7月21日(日)までに電話にて下記申し込み先までご連絡ください。  
【問い合わせ・申し込み先】  
秋田県北部男女共同参画センター  
TEL.0186-49-8552



## 北部ハーモニープラザまつり2013 ～出会い・感動・今ここから～

七宝焼き・ポーセラーズ・インターネットをはじめ、20団体以上の体験・作品展示のほか、バザーや子ども向けイベントもあります。  
【日時】平成25年7月27日(土)10:00～16:00  
【会場】秋田県北部男女共同参画センター(大館市宇馬喰町48-1)

【参加料】無料(託児無料、要予約)  
【問い合わせ・申し込み先】  
秋田県北部男女共同参画センター  
TEL.0186-49-8552 FAX.0186-49-8589



## 募集情報

### 「おおだて夢灯り '13」

手づくりの灯ろうと、ろうそくで  
大文字まつりをもりあげよう!

7月下旬からろうそく作成にも参加できます。  
【日時】平成25年8月16日(金)  
15:00～21:00  
【会場】大館市 長木川市民広場(白鳥広場の対岸)  
【対象】どなたでも参加できます。当日参加も受け付けます。  
【問い合わせ・申し込み先】  
事務局 北部市民活動サポートセンター  
TEL.0186-49-8553



## 平成25年度秋田県レクリエーション大会 樹海ドームでゲームをたのしもう

全県の子どもから高齢者まで参加でき、ミニテニス・ユニカール・各種ダンスなど17種の体験ができます。  
【日時】平成25年7月28日(日)9:00～15:30  
【会場】大館樹海ドーム(大館市上代野稲荷台1-1)  
【参加料】300円(中学生以下無料)  
【持ち物】運動できる服装・各自昼食飲み物  
【お問い合わせ】レクリエーション大会事務局  
TEL.090-3984-8795  
【申し込み】大館市体育協会(大館市民体育館)  
TEL/FAX.0186-42-0805  
※当日申し込みも受け付けますが、事前申し込みにご協力ください。

## イベント情報

### 秋田県生活センター 「食の安全セミナー」

「食の安全と健康生活」をテーマに、消費者に関して必要な知識を学ぶためのセミナーを開催します。  
【講師】慶應義塾大学 井上浩義氏(TV「世界一受けたい授業」などにも出演)  
【日時】平成25年8月2日(金)10:30～12:30  
【会場】大館市中央公民館 視聴覚ホール(大館市桜町南45-1)  
【対象】消費者(どなたでも)先着150名  
【参加料】無料  
【申し込み方法・期限】平成25年7月29日(月)までに電話にて下記申し込み先までご連絡ください。  
【問い合わせ・申し込み先】  
秋田県生活センター北部消費者生活相談室  
TEL.0186-45-1041



## 自分らしく輝く! 地域に根ざしたシニアの起業

シニア世代の起業をテーマに、実例紹介やコミュニティビジネス起業のメリット・注意点について説明します。  
【日時】平成25年7月30日(火)13:30～15:00  
【会場】能代市働く婦人の家(能代市勤労青少年ホームとなり)  
【対象】シニア世代の起業についてご関心のある方  
【定員】20名  
【参加料】無料  
【お問い合わせ・申し込み】  
能代市市民活動支援センター  
TEL/FAX.0185-52-0355 まで  
※詳しくは  
<http://www.shirakami.or.jp/supportnavi/photo/seniorsihsjyukyu.pdf>



## 夏だ!! 集まれ! ファミリーアドベンチャー ダッチオープン&BBQ 講座

アウトドアがもっと楽しくなる調理体験や自然と触れ合い、川遊びや淹めぐりをします。  
【日時】平成25年8月11日(日)9:45～14:45  
【会場】中滝ふるさと学舎(鹿角市十和田大湯字白沢45-1)  
【対象】小学校までのお子さんと保護者  
【定員】70名(定員に達し次第、受付締切となります)  
【締切り】平成25年8月2日(金)まで  
【参加料】大人1,500円 子ども1,000円(小学生以上) 幼児無料  
【お問い合わせ・申し込み】  
秋田県北部男女共同参画センター  
TEL.0186-49-8552 高坂まで



## 一般財団法人 日本メイスン財団 助成金案内

【対象事業】  
①社会的弱者、障がい児(者)の医療、自立、福祉向上を目的とした各種ボランティア活動。  
②上記に関連する機器、施設の改善、備品購入資金の援助。  
※特に児童を対象とする直接的支援プロジェクトを重視します。  
【助成金額】審査より承認された額で1件あたり200万程度まで。  
【申請方法】  
原則として「きょうされん」本部の推薦案件を優先します。推薦団体を通じご照会ください。  
きょうされん TEL.03-5385-2223  
【応募期間】平成25年9月30日(月)まで  
【連絡先】一般財団法人 日本メイスン財団 TEL.03-3431-0033 FAX.03-3578-8440  
URL: <http://www.tma-japan.org/>

## 松翁会 平成25年度社会福祉助成金

【対象事業】  
助成対象案件並びに選考基準  
①障がい者の福祉向上案件、難病案件、虐待防止案件を対象とする。  
②明確な企画(目的、内容、資金使途等)に基づく事業で具体的な計画を持つこと。  
③推進体制が確立しており、自己資金の調達に努力をしていること。  
④先駆的、開拓的の事業を優先する。  
⑤過去3年間松翁会から助成を受けていないこと。  
⑥研究助成は対象外とする。  
※原則として法人・団体であること。法人格をもたないものであっても、特に助成することにより効果が期待できる場合は対象とします。  
【助成金額】  
1件当りの金額は、原則として60万円を限度とします。(応募最低金額10万円、万円単位)  
【応募期間】平成25年7月31日(水)まで  
【お問い合わせ・申し込み】一般財団法人 松翁会 TEL.03-3201-3225  
詳しくは <http://shouhkai.or.jp> をご覧ください。

## 助成金情報

# INFORMATION

## NPOの経営 安定化に向けて

地域問題解決を目指すたくさんのNPOやボランティア活動の継続方法に苦労している団体が多く、今年度から始まったNPO経営安定化等対策事業では、資金、会計などの運営力向上を支援する目的で下記のセミナーを開催します。

### NPOの資金手法

#### ファンドレイジングのセミナー

上手な募金や会費の集め方、書き損じハガキで経営が助かる方法など、少しずつ始められる安定的な運営を図る方法を解説します（8月上旬開催予定）。※ファンドレイジングとはNPO、ボランティア団体の活動資金集めを指します。

### Webの活用と継続の手法のセミナー

HPを含むWebを、「未だ活用していない」、「またはこれから活用しようと考えている」、「活用しているが滞っている」方を対象にしたHPの作成方法や、その継続を実際に活用しているNPOの実例を交えてわかりやすく解説します。（8月下旬開催予定）

### 融資利用促進のためのNPOと

#### 金融機関との意見交換会

NPOが融資を受けるポイントや活用方法など、融資を受けたNPOや金融機関の担当者を招いて情報交換を行います。（10月開催予定）

### 会計のスキルアップセミナー

NPOの会計に詳しい税理士を講師に招いた、会計のスキルアップセミナーを能代地域で開催します。（11月開催予定）

※詳細の問い合わせは

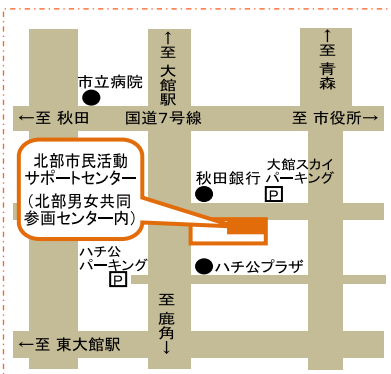
NPO経営安定化等対策事業 担当：市川

秋田県北NPO支援センター TEL.0186-49-3480

市民活動団体（NPO）の運営、資金確保、法人設立等のご相談は、NPO相談員が在勤している北部市民活動サポートセンターの下記までお気軽にご連絡ください。



秋田県の市民活動団体の情報が満載！秋田県市民活動情報ネット <http://www.akita-kenmin.jp/npo/index2.asp>



### <編集後記>

夏の暑さが厳しくなった今日この頃。イベントやセミナーがたくさん開催される楽しい季節ですが、水分補給や体調管理には十分お気を付けください。 <市川>

## んだすな

『んだすな』には、人と人が願いを共感し、協力し合えたらという想いが込められています。

平成 25 年 7 月 10 日発行

発行：秋田県企画振興部地域活力創造課  
〒010-8570 秋田市山王四丁目1-1  
TEL.018-860-1245 FAX.018-860-3875

編集：北部市民活動サポートセンター  
〒017-0842 秋田県大館市字馬喰町 48-1  
TEL.0186-49-8553 FAX.0186-49-8589  
<http://www.akita-kenmin.jp/north-support-center/>  
E-mail [anged1@io.ocn.ne.jp](mailto:anged1@io.ocn.ne.jp)

○北部市民活動サポートセンターは秋田県から委託を受けて特定非営利活動法人秋田県北NPO支援センターが運営しています。